

高学年3組 虹の輪タイム学習指導案

授業日 平成27年7月6日(月) 5校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 越村 尚貴

会場 高学年3組教室

1 単元名 「みんなで歩こう新潟の町」

2 本単元の価値

本単元の目標は、次の通りである。

まち歩き活動を続ける人の話を聞いたり、一緒に体験したりすることを通して、まち歩きの意味を考えることができる。さらに、まち歩きの先駆者である野内さんの生き方に興味をもち、野内さんが地域への思いを行動に変えてきた過程をとらえることで、自分の生きる社会について、実際に知ること、よりよくするために構想づることの大切さに気付き、これからの自分に生かすことができる。

学習対象及び学習事項は、次の通りである。

| 【学習対象】 | 【学習内容】 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・にいがた観光カリスマの野内さん・にいがたシティガイドの方 | <ul style="list-style-type: none">・実際にまち歩き活動を体験することで、まち歩きの活動にはどんな意味があるのか考えること・野内さんがまち歩きを始めた動機や、活動を広める工夫や努力を知ること・地域を知ることの大切さを伝え続ける野内さんの思いをとらえ、その価値を考えること・野内さんの生き方から、自分の生き方について考えること |

本単元では、新潟のまち歩き活動を自発的に始め、現在も新潟のまちの魅力を伝え続けている新潟観光カリスマの野内さんを学習対象とする。野内さんはどんなことをしている人なのか、まち歩きを考えたいきっかけは何か、苦労したことや工夫したことは何か、なぜそこまでまち歩き活動を続けるのかという問いをもって野内さんの生き方を探求させていくことで、野内さんにとってのまち歩きの意味や価値に気付き、自分の生き方に生かそうとする子どもを目指す。

現在、野内さんは新潟市中央区日和山で「日和山館」の館長をする傍ら、イラストレーター、まち歩き活動の講師など、多方面で活躍されている。野内さんは14年前から、自分が暮らす日和山の魅力をもっと伝えたいという思いをもってまちづくりにかかわってきた。具体的には、自費で新潟市中央区の町並みがどのようにしてできてきたか、日和山が新潟のまちづくりの歴史とどのようにかかわってきたかをパンフレットを作成して発信していったのである。その取り組みを新潟市より注目され、2004年から新潟市とともにまち歩きのパンフレットを作ったり、町案内の看板を作って設置したりしてきた。その取り組みが評価され、2013年と2014年にまちづくりにおけるグッドデザイン賞を受賞している。また、野内さんは実際に新潟市を歩いて紹介する活動を進めてきた「まち歩きのパイオニア」としても知られている。町を歩きながら、新潟市の魅力について伝えてきたのである。今では野内さんとともに新潟市が主催した観光ボランティアガイド養成講座を修了した人たちが「新潟シティガイド」を結成し、新潟市のまち歩きを通して、新潟の魅力を伝える活動を行っている。

本単元はキャリア教育に位置付けられる。従来のキャリア教育は、子どもがかかわるキャリアモデルは職業人としての色合いが強かった。そのため、モデルとなる人に憧れはもつものの、自分の生き方とのつながりが見出しにくかった。そこで本単元では、職業人としての仕事に取り組む人ではなく、「地域のため」に市民としての仕事に取り組む人を学習対象とする。それが新潟のまち歩きのパイオニア、野内さんである。野内さんは本業である不動産業とは別に様々な活動をしている。そして、その様々な活動すべてが、新潟の魅力、日和山の魅力を伝えることにつながっている。子どもは、野内さんを学習対象として、思いを探求していくことで、なぜそこまでして地域のために活動するのか問いをもつ。そして、野内さんの活動とその意味を関係付けていくことによって、地域のためにやっていることが、実は野内さんの生きがいになっていることに気付く。そのことに気付いた子どもは、野内さんの生き方に憧れをもつ。そして、どんな仕事でも、野内さんのように、人に喜んでもらえるように努力したり工夫したりすることが大切であると考え。これは、野内さんの生き方から、自分の生き方を考えている姿である。このような学びが本単元の価値である。

3 本単元で目指す姿と「中核的な学習内容」「学びをつなぐ力」

(1) 目指す姿

地域社会にかかわる野内さんと出会い、野内さんが日和山への思いを行動に変えてきた過程をとらえることで、自分の生きる社会について、実際に知ること、よりよくするために行動することの大切さに気付き、これからの自分に生かそうとする子ども

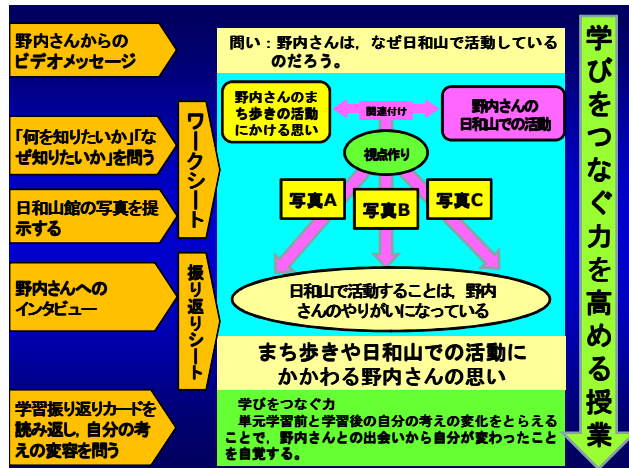
「野内さんは、新潟のまちのおもしろさを伝えるために、まち歩き活動を始めて、パンフレットや町の案内板を作るなど工夫や努力をしてきた。今は、自分で日和山館やカフェ日和山五合目を建てて日和山の大切さを伝えている。野内さんは日和山のために活動することが、そのまま自分の生きがいになっている。こういう生き方は素敵で、自分も誰かの役に立つことがやりがいになるような仕事をしてみたい」などと考える姿。

(2) 「中核的な学習内容」

まち歩きや日和山での活動にかかわる野内さんの思い（地域のため、自己実現のために活動しているということ）

(3) 「学びをつなぐ力」

関係付けるすべを用いて、これまで知っている野内さんの事実と新しい事実を結び付け、新しい情報を収集するための視点を設定する力



4 指導計画 全15時間 (450)

単元カード参照

5 指導の構想

単元の導入は、新潟シティガイドの方と一緒に附属新潟小学校の回りの西大畑エリアの「まち歩き」を一緒に行う。子どもは学校の回りには今まで自分が知らなかった建物や歴史があることを知る。その後、まち歩きの活動の意味を問うことで、子どもはガイドの人が新潟のよさを発信し伝えようとしていることを予想する。そのような子どもに、新潟シティガイドを育成した「にいがた観光カリスマ」の存在を提示し、一体その人がどんな人なのか関心をもたせる。関心をもった子どもに、にいがた観光カリスマの野内さんを学校に招待してお話を聴く機会を設ける。野内さんから、新潟のまち歩きをすることになったきっかけについて話してもらい、新潟のまちを歩くことのおもしろさについて詳しく話してもらおう。野内さんの話を聴いた子どもは、シティガイドさんと一緒に行ったまち歩きとは違う内容に興味をもち、野内さんとも一緒にまち歩きをしたいと考えるようになる。そのような子どもに、野内さんから一緒にまち歩きに行かないかと誘ってもらい、2回目のまち歩きを行う。子どもは、**比較するすべ**を用いて、1回目と2回目のまち歩きの体験との共通点や違いに目を向けるようになる。そして、違いを問うことで、まちの魅力伝えるために、野内さんが工夫や努力を繰り返し、人に興味をもってもらえるようにまち歩きを改善してきたことに気付く。そのような子どもに、野内さんをまち歩きの活動に向かわせ続けるのは何なのかを問う。すると子どもは、野内さんのまち歩きの活動にかける思いを考えるようになる。

野内さんのまち歩きに込められた思いを考えた子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 1

新たな事実（野内さんの日和山での活動）を提示し、これまで知っている事実（まち歩きの活動）との違いから、気になることを問う。

子どもに、野内さんの本当の思いに迫る問いをもたせるための働き掛けである。

前時までの学習で、子どもは野内さんが新潟のまちをもっと知ってもらいたい、まち歩きのおもしろさを伝えたいという思いをもってまち歩きを行っていると考えている。そのような子どもに、野内さんからのビデオレターを見せる。その中で、野内さんから、今は日和山を拠点にして活動しているという新たな事実を教えてもらう。子どもは**比較するすべ**を用いて、既有事項と新たな事実とを比べ「野内さんはそこで何をしているのか」「なぜまち歩きよりも日和山で活動しているのか」などと問いをもつ。

働き掛け2

野内さんの日和山の活動について、調べたい視点（何を知りたいか、なぜ知りたいか）を明確にした上で、日和山館の写真を提示したり、野内さんに出会わせたりする。

日和山で活動する野内さんの思いを明らかにするために必要な情報を収集させるための働き掛けである。

もっと野内さんのことを知りたいと思った子どもに、これからどうしたらよいかを問う。子どもは、今までの経験から、野内さんに会って話を聞きたいと考える。そのような子どもに、野内さんに会ったら何を聞きたいのかを問う。子どもは収集したい情報を発表する。そのような子どもに、なぜそのことを聞きたいのか、理由を問い返す。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、野内さんのまち歩きへの思い（既有）と関係付けて、日和山での活動の理由を考えようとする。この「何を知りたいのか」「なぜを知りたいのか」という発問をセットで行うことで、情報を収集するときの視点を明確に設定することができる。そのような視点をもたせた上で、日和山館の写真を提示する。子どもは視点を明確にもっているため必要な情報を収集することができる。その後、野内さんに出会う場を設定し、子どもは野内さんへのインタビューから、自分が必要な情報を収集することができる。

働き掛け3

収集した情報をもとに、野内さんの様々な活動（まち歩き・日和山での活動）に対する思いを問う。

収集した情報を整理・分析させるための働き掛けである。

働き掛け2で設定した視点をもとに、子どもは野内さんの日和山での活動について、自分が調べたい情報を収集している。その情報をもとに、野内さんの様々な活動に対する思いを問う。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、まち歩きへの思いや、日和山での思いなど、野内さんの様々な活動に対する思いを結び付けて、まちや日和山のおもしろさを知ってもらって喜んでもらえることが自分の生きがいであるという、野内さんの活動の本質となる思いをとらえる。

働き掛け4

野内さんとの出会いから、自分が学んだことを問う。

学習のまとめとして、野内さんとの出会いから、自分が何を学んだかを問い、学習のまとめシートに書かせる。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、野内さんの生き方と自分の生き方を結び付ける。子どもは、野内さんのように地域のために活動することが、そのまま自分の生きがいになっていることに憧れをもち、自分もやりたいことが誰かの役に立つことになるような仕事をしたいと考える。

「学びをつなぐ力」を自覚させる働き掛け

今までの学習振り返りシートを読み返らせ、自分の考えがどのように変容したかを問い、なぜ変容したのかを振り返らせる。

毎時間書きためておいた学習振り返りシートを読み返らせ、自分の考えがどのように変容したかを問い、なぜ変容したのかを振り返らせる。子どもは、単元学習前と学習後の自分の変化をとらえ、なぜ変容したかを振り返ることで学びをつなぐ力を自覚する。ここでは特に野内さんへの思いを関係付けたことが自覚される。

本時の構想（本時 11/15時間）

(1) ねらい

関係付けるすべを用いて、野内さんのまち歩きへの思い（既有）と新たな事実（野内さんの日和山での活動「対象」）とを結び付けて考え、資料を収集する視点を設定し、その視点を基に自分が調べたい情報を収集することができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

3次の始まりから記述する。

このような子どもに（C0）

- 複数のまち歩きの体験（シティガイドの関さんとの1回目のまち歩き、にいがた観光カリスマの野内さんとの2回目のまち歩き）を終え、まち歩きにもいろいろなおもしろさがあることを感じている。そして、野内さんのまち歩きへの思いを予想している。
 - ・実際にまちを歩くと、今まで知らなかったことがたくさん分かってよかった。
 - ・新潟の町がどうやってできたかが、よく分かった。
 - ・シティガイドさんも、野内さんも新潟のことをもっと知ってほしいと思って活動していたんだ。

- ・野内さんは、にいがたの町のおもしろさを伝えるために、いろいろな工夫をしていた。
- ・野内さんは、まち歩きのおもしろさを伝えるために、すごく長い時間をかけてがんばってきた。

このように働きかけると【働き掛け1】

- 野内さんのまち歩きの活動への思いを問う。
 - ・説明「前の授業で、野内さんのまち歩きの活動にかける思いを考えましたね。いろいろな思いをもっている人なんでしょうね」
 - ・発問「野内さんはまち歩きにどんな思いをもっていると予想しましたか」
- 新たな事実（野内さんの日和山での活動）を提示し、気になったことを問う。
 - ・説明「先生も野内さんのことをもっと知りたくくなって、ビデオを持って会いに行ってきました。そのときの映像を見てください」
 - ※野内さんからのビデオレター

前は雨の中、まち歩きをがんばりましたね。今度は違うコースを歩いて日和山まで来ませんか。実は、日和山の中腹には、私の秘密基地があるのです。最終的にはここで私と握手するなんてどうでしょうか（笑）。
 - ・説明「実は、野内さんに会いに行ったら、そこは日和山だったんです。野内さんはそこで日和山館という建物を建てたそうなんです」
 - ※日和山館の概観が分かる写真を提示する。
 - ・発問「この映像や写真を見て、みんなは野内さんについて気になったことはありますか。ワークシートに気になったことを書きましょう」
 - ※ワークシートを配付する。
- 野内さんについて気になったことの中味を問い、学習課題を設定する。
 - ・発問「気になることがあったみたいだけど、今みんなはどんなことを知りたいですか」
 - ・説明「野内さんのことをもっと知りたいと思っているんですね」
 - ・説明「では、みんなの気になっていることをまとめて『もっと野内さんのことが知りたい』を今日の学習課題とします」

このようになり (01)

- 前時に考えた野内さんのまち歩きの活動への思いを発表する。
 - ・野内さんは、新潟のまちのおもしろさを伝えたくてまち歩きをしているのだと思います。
 - ・野内さんは、自分でパンフレットを作ったり、案内板を作ったりして、まち歩きの魅力を伝えていきます。
 - ・野内さんは、もっとまちのことを知ってもらいたいと思ってまち歩きをしています。
- 新たな事実を知って、気になったことをワークシートに記述する。
 - ・野内さんが話していた、日和山の秘密基地とは何だろう。
 - ・野内さんは、なぜ日和山にそんな建物を建てたのだろう。
 - ・野内さんは、そこで何をしているのだろう。
- 野内さんについて気になることを発表する。
【通過基準】のように、新たな事実を知って、野内さんの日和山での活動に対して疑問をもっている姿を通過とする（ワークシート、発言記録から検証）。

このように働きかけると【働き掛け2-①】

- 学習課題を解決するために、これからどうしたらよいかを問う。
 - ・発問「もっと野内さんのことを知るために、みんなはこれからどうしたいですか」
- 野内さんの思いを知るための視点をもたせるために、何が知りたいか、なぜ知りたいのかを問う。
 - ・発問「野内さんに会って、どんなことを聞きたいのですか」
 - ・発問「なぜ、そのことを聞きたいのですか」
 - ※理由を問う発問は、何が知りたいかの問いに答えた子どもに問い返して行う。
 - ・指示「野内さんに会って調べたいことと、その理由をワークシートに書きましょう」

このようになり (02-①)

- もっと野内さんのことを知るためにどうしたらよいかを考える。
 - ・野内さんにもう一度会って、話を聞けばよい。
 - ・野内さんに聞きたいことをまとめて、電話で聞けばいい。

- 野内さんに会って何を知りたいのか、それをなぜ知りたいのかを考え、ワークシートに書く。
 - ・私は、野内さんがなぜ日和山館を建てたのか知りたいです。なぜなら、野内さんは日和山のことをたくさんの人に伝えたいと考えていると思うからです。
 - ・日和山館で、野内さんがどんなことをしているか調べたいです。なぜなら、野内さんはまち歩き活動でも日和山館を利用しているかもしれないと思ったからです。

【通過基準】 のように何を知りたいか、 のようにその理由をまち歩き活動と関係付けて記述していれば通過とする（ワークシートから検証）。

このように働きかけると【働き掛け2-②】

- 日和山館の様子を映した写真を提示し、知りたい情報を収集させる。
 - ・説明「みんながもっと日和山館の写真が見たいと言っているかもしれないと思って、何枚か写真を撮らせてもらいました。」
 - ・発問「この写真から、自分の調べたいことが分かるような情報はありますか」
 - ・指示「写真から見つけた自分の調べたい情報を、ワークシートに書きましょう」
 - ・指示「見つけた情報と、その情報から考えたことを発表してください」

このようになり (G2-②)

- 日和山館の写真から、自分が調べたいことが分かるような情報を収集する。
 - ・(野内さんがなぜ日和山館を建てたか調べたい子どもについて) 写真の中に、何冊か本がある。野内さんは、ここで日和山にかんする勉強をして、人に日和山の歴史を教えているのではないか。
 - ・(野内さんが日和山でどんな活動をしているか調べたい子どもについて) 写真の中に、2階がギャラリー、1階がコーヒーと英語で書かれているものがあった。野内さんは日和山を訪れた人にコーヒーを出して、ゆっくり過ごしてもらいたいのではないか。

【通過基準】 のように、提示された写真から、自分の調べたいことが分かる情報を収集する姿を通過とする（ワークシート、発言記録より検証）。

本時はここまで

このように働きかけると【働き掛け2-③】

- 日和山館を見学したり、野内さんにインタビューしたりして、自分が調べたい情報を収集する。
 - ※野内さんと一緒に3回目のまち歩きを行い、その途中で日和山館へ招待してもらう。
 - ・説明「ここが野内さんが話していた日和山館です」
 - ・指示「見学させてもらったり、野内さんにインタビューしたりして、自分が調べたいことを調べましょう」

このようになり (G2-③)

- 日和山館の見学と、野内さんへのインタビューから、自分が調べたい情報を収集する。
 - ・野内さんは、自分の今までの活動の集大成として、ここに日和山館を作ったのか。
 - ・日和山館は、日和山に来た人にゆっくりと過ごしてほしいから作ったことが分かった。
 - ・野内さんはここが地元で、日和山について、昔は興味がなかったけど、大人になってからもっと日和山を大切にしないといけないと考えようになったそうだ。
 - ・日和山館にはカフェ日和山五合目が入っている。これは、コーヒーを飲んで、日和山を楽しんでもらいたいからだ。

このように働きかけると【働き掛け3】

- 収集した情報を基に、野内さんの様々な活動（まち歩き・日和山での活動）に対する思いを問う。
 - ・説明「もっと野内さんのことをよく知るために、自分が調べたいことを決めて、写真を見たり、実際に日和山館に行ったり、野内さんにインタビューしたりして情報を集めてきました」
 - ・発問「野内さんの様々な活動にはどんな思いが込められているのでしょうか。なぜ野内さんはそこまでして活動に取り組んでいるのでしょうか」

このようになる (G3)

- 自分で収集した情報を基に、野内さんの様々な活動に対する思いを考える。
 - ・まち歩きでは、野内さんはまちを歩くことのおもしろさを伝えようとしていた。日和山での活

動では、日和山の大切さを伝えようとしていた。どちらも自分の住んでいる地域の魅力を大切にしようという思いが込められている。野内さんがそこまでして活動に取り組むのは、きっと野内さん自身がまち歩きや日和山での活動を楽しんでいるからだと思う。

【通過基準】 のように、まち歩きの活動、日和山での活動、それらの活動が野内さんのやりがいになっていることが述べられている記述を通過とする。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 野内さんとの出会いから、自分が何を学んだかを振り返らせる。
 - ・発問「あなたは、野内さんとの出会いから、何を学びましたか」
 - ・指示「学習のまとめシートに書きましょう」

このようになる (Cn)

- 野内さんとの出会いから自分が学んだことを振り返る。
 - ・野内さんは、新潟のまちのおもしろさを伝えるために、まち歩きの活動を始めて、パンフレットや町の案内板を作るなど工夫や努力をしてきた。今は、自分で日和山館やカフェ日和山目を建てて日和山の大切さを伝えている。野内さんは地域のために活動することが、そのままの生きがいになっている。こういう生き方は素敵で、自分も誰かの役に立つことがやりがいになるような仕事をしてみたい。

「学びをつなぐ力」を自覚させる働き掛け

- 今までの学習振り返りシートを読み返らせ、自分の考えがどのように変容したか、なぜ変容したのかを問う。
 - ・発問「これまでの学習振り返りシートを読み返してみて、自分の考えで変わったところがありますか」
 - ・発問「なぜ自分の考えが変わったのですか」

このようになる

- 自分の考えの変容に気づき、なぜ変容したか振り返ることで学びをつなぐ力を自覚する。
 - ・前は町に何があるか興味がなかったけど、野内さんと出会って一緒にまち歩きをしてみて、町を知るのもいいなと思うようになりました。野内さんの思いを知ったから自分の考えが変わったのだと思います。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な学習内容」を創り出すことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、 のように、子どもが収集した情報をもとに、まち歩きや日和山での活動にかかわる野内さんの思い（地域のため、自己実現のために活動しているということ）をとらえることができたかを、ワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け2-①を受けて、 や のように、新しい事実から情報を収集するための視点を設定することができたかを、ワークシートの記述から検証する。
働き掛け2-②を受けて、 のように、野内さんの思いをとらえる視点をもって情報を収集することができたかを、ワークシートの記述と発言記録から検証する。
- ③ 「学びをつなぐ力」を自覚させる働き掛けを受けて、自分の考えの変化に気づき、なぜ変容したか振り返ることで、想定した「学びをつなぐ力」を自覚することができたかを学習のまとめシートの記述から検証する。